

令和7年度 第1回愛知県食育推進会議 会議録

1 日時

令和7年7月11日（金）午後2時から午後3時25分まで

2 場所

愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3 出席者

会長及び23名の委員

事務局として農林水産推進監始め38名

4 傍聴者

2名

5 議事の概要

(1) 開会

皆様お待たせいたしました。

ただいまから、令和7年度第1回愛知県食育推進会議を開催させていただきます。

私、本日の司会進行を務めさせていただきます、愛知県農業水産局農政部長の太田でございます。よろしくお願ひいたします。

始めに、愛知県食育推進会議の会長であります、大村知事から御挨拶を申し上げます。

(2) 知事挨拶

皆様こんにちは。愛知県知事の大村秀章です。

本日、委員の皆様には、大変お忙しい中、令和7年度第1回愛知県食育推進会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

また、日頃から愛知県における食育活動の推進に、格別の御支援と御協力をいただいております。厚く御礼申し上げます。

さて、今年度は2005年に食育基本法が制定されてから20年を迎える節目の年に当たります。

この20年間、学校を始め、家庭や地域などあらゆる場面で食の大切さを学ぶ取組を皆様とともに進めてきた結果、食育が私たちの生活に深く根づいてまいりました。

20年前、私は国会議員を務めており、自民党の農林部会などで議論をしてから、もう20年経つのだなと懐かしく思います。

当時は、食育が耳慣れない言葉でありましたが、だいぶ定着してきた感じがいたします。

これも本日お越しいただいている委員の皆様方がそれぞれのお立場で、御尽力いただいた賜物ではないかと思っております。心から感謝を申し上げます。

さて、そういった中ではありますが、食育は、生涯に亘って切れ目なく行わなければならないものであります。

そのためには、小さい頃から家庭や学校で学んできたことを大人になっても継続し、健全な食生活を実践することが重要であります。

今年度は、現行の「あいち食育いきいきプラン 2025」の最終年度に当たります。

こうした大人向けの食育にも着目しながら、これからの新しい時代に求められる食育について検討を深めて、新たな食育推進計画の作成に向けた準備を進めてまいりたいと考えております。委員の皆様には引き続きのお力添えをお願いいたします。

本日の会議では昨年度の食育の取組紹介や、現行プランで定めた目標の進捗状況などにつきまして御協議をいただきます。

限られた時間ではございますが、委員の皆様には忌憚のない御意見を賜りまして、実りのある会議になりますようお願いを申し上げます。

なお、今年は7月4日に梅雨明けいたしまして、これまでで3番目に早い梅雨明けということでございます。猛暑の中で、何となく食欲もなくなってくるかもしれせんけれども、こういう夏の暑さを乗り切るためにも、栄養バランスが良いものをしっかりと食べていただきたいと思えます。また、しっかりと食事をとることが大事だということを、改めて私どもがPRをしていきたいと思っております。

本日は食育について、様々に御意見をいただき、また引き続きこの食育を推進していきますので、何卒よろしくをお願いを申し上げまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(3) 委員の出席等

なお、知事は公務の都合により、ここで退席をさせていただきます。

それではお手元の愛知県食育推進会議委員名簿を御覧ください。

本日は委員 29 名のうち、23 名の委員の方に御出席をいただいております。

愛知県食育推進会議条例第4条第3項の規定の「半数以上の委員の出席」を満たしておりますことを御報告申し上げます。

なお、昨年7月の推進会議以降、委員の異動がございまして、新たに10名の方に御就任いただきました。

本来でしたら、お一人お一人から御挨拶いただくところですが、時間の都合もござ

いますので、出席者名簿をもって御紹介に代えさせていただきます。

また、本日の会議資料につきましては、次第の下に、配付資料一覧を記載しておりますので、御確認をお願いいたします。

なお、会議の終了時間は午後 3 時 30 分を予定しておりますので、御協力をよろしくお願いいたします。

それでは、ここからは愛知県食育推進会議運営要綱第 2 条の規定により、会長代理であります、松井農業水産局長に議事の進行をお願いいたします。

議長

愛知県農業水産局長の松井でございます。

それでは、お手元の会議次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(4) 議事録署名人

始めに、本日の会議録の署名人についてですが、愛知県農業協同組合中央会 加藤委員と、愛知県歯科医師会 上村委員をお願いをしたいと存じます。

よろしくお願いいたします。それでは早速議題に入ります。

(5) 議題

ア 議題(1)の「あいち食育いきいきレポート 2025」(案)について

議題(1)の「あいち食育いきいきレポート 2025」(案)について、事務局から説明してください。

【事務局】

資料 1 により説明。

議長

それではただいま説明のありました、「あいち食育いきいきレポート 2025」(案)について、御意見等を伺いたいと存じます。

御意見などがございましたら、挙手をお願いいたします。

御指名いたしますので、団体、組織名とお名前を述べられてから、御発言をお願いいたします。

いかがでございましょうか。

それではせっかくの機会でございますので、レポートの特集に係る委員の方に

取組の御紹介をいただければと思います。

まず6ページかと思いますが、食農教育表彰について、愛知県農業協同組合中央会の加藤委員、御発言をお願いできればと思います。お願いします。

【加藤勇二委員】

はい、愛知県農業協同組合中央会の加藤でございます。

御指名をいただきましたので少し御案内をさせていただきたいと思います。

6ページに御覧いただいたとおりのことを今行っておるわけではありますが、そもそも、2021年の12月に、教育委員会と連携協定を結びました。

これは食農教育に関する連携協定を結んだんですが、そのきっかけは、こういった会議で私も参加しておったんですけど、やはり将来を託す子どもたちが、最近我々の時代から比べると、食に対する感謝が薄れてきてるんじゃないかな、こういう問題意識がありました。

また今、食品ロスの話もよく言われるわけですが、食べ物を大切にする、感謝をする、作っている人に対する感謝をする、そういう気持ちをどう育むかっていうのが1つ、問題意識にありました。

それと同時に、県産の農産物が、地元はどういったものがとれるのか、昔は登下校のときに農家の方が必ずお見えになって、いろんな作業をしているところが見えたわけですが、最近、なかなかそういう環境がなくて、今、逆に暑過ぎて、親御さんが送り迎えまでするような時代になって、なかなか食や、食の根源にある農業の姿を見る機会が少なくなったのではないかと。そんな中でどのようなことをしたらいいのかなということで、この会議に出さしていただいたときにちょうどSHIN化という言葉をお使いになられてですね、深掘りとか継続性、拡張性、こういったことを課題提起されたという時期でありましたので、私どもも、教育委員会と連携を図りながら、何らかアクションが起こせないのかなということで、まず、連携協定を結びました。

そのあと具体的にどういうことをやろうかということ考えたときに、まずは子どもたち、今、大人の食育が話題になっておりますが、まずは子どもたちから、ということで子どもたちイコール、小学校、中学校、特別支援学校等々あるわけですが、そういった学校で、昔から芋掘りや、バケツ稲を作ったりとか、料理をやったりとか、ニワトリとかを育てたりとか、いろんなことをやってみることは薄々わかっておったんですけども、そういった中で特色のある取組をしてみえるところを、県の教育委員会とともにですね、表彰制度の中で、御紹介をしながら、その継続性なり、深化、深掘りなり、拡張性、こういったものについてですね、一つ貢献できないものかな、こんな思いでこの食農教育表彰を始めたということで、2023年度から始めて2回進んで今年3回目ということになります。

1回目は21校で22件、これは小学校ばかりでありました。昨年は9校に減ったんですけど、中学校からもございましたし、名古屋市内からも応募していただけたということで、だんだんこう、広がりつつあるかなということですが、対象になるのが、多分、小中学校と、それから特別支援学校ですか、こういった学校もあると思うんですが、そういったものを合わせると、1,000校を超えるような対象の中で、わずかというところで、ここがなかなか悩みどころで、もっとうまく広がらないかなという課題は持っております。

そういった中で表彰の例が、第2回目のものが載っておりますけども、6ページにですね、蒲郡西部小学校が載っております。

私自身びっくりしているんですが、こうやって表彰をさせていただく学校の取組っていうのは、ものすごく、我々が思っている以上に真剣に考えておられて、環境のことも考慮され、取り組んでおられると。単に物を子どもたちに作ることを教えるんじゃないかって、ここで言うと、摘果みかん、捨てるというか間引きするわけですね。摘果するみかんをうまく活用し、そして肥料についてはこういうバイオネストということで、注書きがありますが、剪定枝だとか幹などを堆肥に変えるということで、環境にやさしい農業ですね。そして、そういったことを活用した土づくりをやってみえるということで、本当に農家の立場からしてもすばらしい取り組みを、学校を挙げてですね、先生が御指導されながら、農業の大切さ、それから環境にやさしい農業とはどういったものか、そして食べ物のお大切さ、こういったものを子どもたちが、体験の中でですね、感じるという取組ではないかということで、今後とも継続していきたいなと思っております。

ということで、この食農教育というのは、心と体の子どもたちの健康ということですが、私どもちょうどJAグループ愛知では、ウェルビーイング運動というのをですね、昨年のJA大会から始めておりまして、我々は農業団体ですので、農家はもちろんですが、地域の皆様、そして、JAで働く役職員の心や体、こういったものの健康についてですね、組織を挙げて取り組んでいこうということで行っていることを御報告しまして、私の報告にかえさせてもらいます。

議長

どうもありがとうございました。

それでは続きまして、7ページになるとと思いますが、第9回食育活動表彰で受賞されました取組につきまして、愛知県食生活改善推進員協議会の衣川委員、御発言をお願いします。

【衣川委員】

はい。先ほど御紹介がありましたけれども、本日は、愛知県食生活改善推進員協議会として出席しているわけですが、私は知多市健康づくり食生活改善協議会の会長も務めておりますので、そちらの方で紹介したいと思います。

私たちは、小学校の親子を対象とする講座を開いており、早寝早起き朝ご飯から朝食の大切さや、幼少期からの減塩の大切さを伝えております。

若者世代へは、地元の高校へ出向き、朝食の大切さやBMIから適切な体重を知ってもらい、女性のやせや肥満への意識改革となるよう、また、野菜摂取量推奨量が1日350グラム以上であることを伝えていきます。

また、市民大学の方で、月に2回、男性クッキングという講座を開講しております。そちらの講座は、講話と調理実習からなっており、講話の方では、厚生労働省の推奨する1日の塩分摂取量、男性7.5グラム、女性6.5グラムであることや、野菜摂取量を伝え、献立も工夫しております。

高齢世代へは、年1回サロンへ出向き、働き世代のメタボ対象からギアチェンジが必要であり、低栄養予防やフレイル予防についてお話させていただいております。

この度、消費・安全局長賞という栄誉ある賞をいただき、大変光栄に思っております。関係各所の皆様には感謝しております。

今後も、より一層、会一同食育活動に取り組んでいこうと思っております。

この度はありがとうございました。

議長

どうもありがとうございました。

貴重なお話をいただきまして、加藤様、衣川様、誠にありがとうございました。

この他、御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。それでは、「あいち食育いきいきレポート2025」につきましては、事前にいただきました、体裁などの御意見などを踏まえまして、修正を行った上で公表に結びつけてまいりたいと思っております。

なお最終的な微調整等につきましては、事務局一任にということで、御了解いただければと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

それでは進行させていただきます。

イ 議題（2）の「あいち食育いきいきプラン2025」の推進について

議題（2）の「あいち食育いきいきプラン2025」の推進について、事務局から説明

してください。

【事務局】

資料 2、3 により説明。

議長

まず、事前に御意見をいただいております、愛知県農業経営士協会の竹生委員に御発言をお願いできればと思います。

【竹生委員】

はい。御指名ありがとうございます。

愛知県農業経営士協会の副会長をさせてもらってます竹生と申します。

この会の参加、昨年に引き続き 2 度目になるんですけども、昨年もちよっと同じようなこととお話してもらったかもしれませんが、資料 3 の 4 ページ、5 ページ、6 ページあたりですかね。

特に、学校給食における、地域の産物活用に向けた取組というところで、県産の農産物の割合を増やしていきましようというところ、とても大事な取組だと思うんですけども。

農家からするとですね、ちなみに私、豊川市でトマトを作ってます。トマト農家です。午前中までハウスの中で汗かきながら仕事をしておりました。

私たちのような農家からすると子どもたちが学校給食を食べながら、どれだけ地域の食材を使っているかって、なかなかピンと来てないんじゃないかなというのを感じてまして。

組織の中のメンバーと話し合いながら、農家が 1 歩前に踏み出して、子どもたちに本気の食育活動をしていきませんかと提案し、一昨年から取組を始めさせてもらってます。

具体的には、小学校に赴いて、給食の時間に子どもたちとご飯を食べながら、豊川の農業の話、お米の話、地産地消の話などをさせてもらいながら、場合によっては食材を持ち込んで、実際に食べてもらうというようなこともやってきました。

小学校の先生とお話させてもらおうと大変喜んでいただいて、是非引き続きやっていきたいね、っていうようなお話になるんですけども、その後何かあったときに誰が責任取るんだというような話が出てきてしまい、うまく進んでいないのが現状です。

実は最初豊川市の農務課が間に入って段取りして進めていたんですが、そういった問題があると、市の方はなかなか間に入れないというようなことになって、今は私たちの組織自ら、「小学校や学童に出向いて食育活動します、もしよかったらどうです

か。」っていうような案内をさせてもらっています。

食育活動といっても農家のおっちゃんたちが行くわけなので、子どもたちと接する際や食材を持ち込む際に気をつけた方がいい点や、学校との連携などアドバイス等があったら教えていただきたく質問させていただきました。

議長

外部人材が学校でどのように活躍できるかというようなお話かと思うんですけども、そうしましたら、愛知県小中学校長会の給食委員会の浅田委員様、御意見いただけますでしょうか。

【浅田委員】

はい。愛知県小中学校長会給食委員会の委員長を務めております、東郷町立諸輪小学校校長の浅田と申します。

今回この会に初めて参加させていただきます。よろしくお願いします。

学校の立場からお話させていただきたいんですけども、生産者からの、生のお話を直接聞けるというのは、子どもたちにとって本当にいい体験になる機会かと私自身は思っておりますので、大変ありがたい取組をされてるなと思います。

ただそれが、街中のそういう経験があまりできないような学校は、本当にそういう話を聞く機会が貴重だと思いますし、そもそも、本校だととても田畑が近くにあるので、昔から地域の方が来てくださって、いろいろお話していただく関係性ができている学校と、いろいろ学校によって事情があるのかなということが一つと、あと、アレルギーの問題というのがやっぱり今、大変重くありまして、まず事前にアレルギーの面から、大丈夫かどうかというのを確認した上でというところは、やはり学校としては安全上の問題で大切であろうかと思えます。いずれにしても地域の方と繋がるということ、これは本当にすごく意味のあることだと思いますので、ぜひ広がっていくとよいと思っております。

はい。以上です。

議長

どうもありがとうございました。街中の学校と、地域に農地のある学校ではまた、考え方も違うし、もちろんアレルギーの問題もあるし、いろんな課題など、提言いただきました。ありがとうございました。

これに関連いたしまして、名古屋学芸大学の安達委員からも、学校給食に関して御意見をいただいておりますので、安達委員からも御発言をお願いします。

【安達内美子委員】

はい。名古屋学芸大学の安達です。よろしくお願いします。

5ページの学校給食における地域の産物の活用に向けた取組について2件、質問があります。

1点目ですけれども現状と課題のところに増加傾向から一転、55種類と減少に転じた、その理由として価格高騰や、天候不順などが原因ということで、今後も続くと予想されるとありますが、こちらについては全国的なことか。もしかしたら、地球全体で起こっていることではないか。その中で、どこの産地の品が増えているのか、もしかして輸入の食材が増えているのかなとか、加工食品が増えているのかなと、いろいろ心配されるので、質問させていただきます。

それからもう1点ですけれども、主な取組の括弧の一番ですが、下の方に地場産物の活用に対する上での課題として、価格が高い、規格サイズが合わないことが挙げられています。それでも野菜を使っているということは、県外の野菜は規格に合っている、価格が安いということになると思いますが、こういう問題は愛知県だけのことなのかどうかお伺いしたいと思います。

議長

ありがとうございました。

価格によって食材が色々変わるとかですね、いろんな課題があると思います。

この5ページに関係しまして、もし何かあればそういった御意見も踏まえた上で、教育委員会さんの方にも話を聞こうと思いますが、関連で何かございますでしょうか。では、保健体育課の方、お願いします。

【事務局】

はい。保健体育課です。

まず1つ目について、県内の食材が減って、どこ産の食品が増えているかということですが、私どもの調査では、“県内の食材”、あと“隣接4県”、三重県、岐阜県、長野県、静岡県、そして、“その他”というような形で、調査をしたところ“隣接4県”の数字が増えておりますので、愛知県産が減った分、三重県、岐阜県、長野県、静岡県産の食材を使って、給食を作ったという風に考えております。

2つ目です。

価格が高いことや、規格サイズが合わないといった理由が愛知県だけなのかということですが、私どもが出席する会議で東海近畿北陸ブロックの学校給食研究協議会というものがございます。

そこでもやはり、同様のことが課題として挙がっておりまして、天候不順による価

格高騰であるとか、使用量の確保が難しいということも挙がっております。

規格サイズが合わないということにつきましては、特に県内は給食施設のセンター化、大型化が進んでおりまして、そういったところで、機械で野菜等の処理をすべきことが増えてまいりました。

そういったことから、できるだけサイズや規格を統一したものを求める傾向があるというのも1つの要因ではないかと思っております。

以上です。

議長

はい。ありがとうございました。

このことに関連して追加でもよろしいですし、再度、何かあれば伺います。

竹生委員、御発言をお願いします。

【竹生委員】

ありがとうございます。

農家目線から一言だけ、全国的に見ても、愛知県産の農産物って非常に物が良いものですから、価格も高いという現実があります。

こういった資料を見るたび、愛知県産のものを使うとなると、限られた予算の中で食材を選んでいくというのは、非常に大変なんだろうなと思うんです。例えば、トマトで言うと、愛知県産のものを使うよりも、熊本県産のものを使った方が圧倒的に安いです。そういった現実も御理解していただけるといいなと思います。

議長

ありがとうございます。

物が良いから、使えないっていうのも、ちょっと悩ましいところでございますが、他に御意見ございますでしょうか。

よろしければ、では一旦5ページから変わり、続きまして、愛知県農業協同組合中央会の加藤委員からも事前に御意見をいただいております。

加藤委員、御発言をお願いします。

【加藤勇二委員】

はい。先ほど御意見もあり愛知県産の物の品質がいいので、いい値がまあまあつきますっていうお話だったんですが、私も承知をしているんですが、それと、愛知県産

を優先して、我々県民がもっと食べるべきだと。

このことについて、関連して、提案というか、ひと工夫したらもう少し消費が増えるんじゃないかなということをお話したいと思います。

今、大人の食育ってよく言われるようになりました。

そういった中で、先ほども紹介がありましたが、社員食堂の話は、すぐ皆さんですね食材に県産使うとかそういう話はよく発想としてはあるんですけども、もう少し、社員食堂もいいんですけども、そこで働く、我々大人になるとみんな働くわけで、最近では皆、男性も女性も働くと、そういう社会になっておるわけでありましたが、そういった中で、必ず企業には福利厚生制度があります。

でありますので、福利厚生の一環で、企業が一部負担しながらいいものを、手ごろに買える仕組みを作って、社員が帰るときに、そういった食材を持って、家庭で作るとか、いろんなやり方があると思うんですけど、そういった福利厚生とのコラボってというのはできないものかな。

それを考えたのは、特にこれから環境にやさしい農業ということで、どうしてもコストが、愛知県産はものいいんですけど、もっと更にもう1歩、環境にやさしい、有機とかいろいろ、コストがかかるんですね、どうしても。そういった、健康にいいものってというのは皆、欲するわけで、一定のコストがかかるんで、その分、値が張るわけでありましたが、これは社員の福利厚生の一環ということも理解されると思いますので、そういったところのチャンネルも使いながら、県内での環境にやさしい農業と県産を、いいものをですね県民が食べていくと、そういうスキームができるともっと県産が広がっていくんじゃないかと。

それが大人の食育にも繋がるんじゃないかと、PRの仕方によっては、本当にこの幅や裾野が愛知県は広いと思いますので、そういったことを試みるためにも、例えばこういう会議、そういう出口っていう表現は正しくないですが、企業の方にも参加し、コラボしながらですね、そういったことを、仕組みとして作れるようになるというのと、こんなことを思うわけでありまして、そういったことを1度にできることではないかもわかりませんが、そんなことを、やってみたらどうかということをお話させていただきます。

以上です。

議長

はい。ありがとうございました。

福利厚生をうまく活用して、企業が社員に、そういうところから広げていこうかというお話ですとか、環境にやさしいというところを重視して、そこをどううまくつなげるかというようなお話だったと思います。

こういった関連で何かございましたら、御発言をいただければと思います。
事務局、何かありますか。

【事務局】

はい。食育消費流通課長の福井です。

先ほど6ページのところでですね、地産地消の取組の主な取組の中で、2社、2大学で、メニューフェアを実施したというところがあるんですが、これは、デンソーさんとか、碧海信金さん、また南山大学さんと愛知学院大学さんで、メニューフェアを開催させていただきました。

これは愛知県産農林水産物を使ってもらうというものなんですが、今お話があったとおり、いろんなところでコラボができるということがありますので、今年も、このメニューフェア、どの大学になるのかまだ確定はしていませんが、やっていきたいと思っておりますので、そういうことも企業さんにも提案していきたいと思っております。いいともあいち運動の応援団にも様々な企業さんがおりますので、そちらの方にも、いろいろ情報発信させていただいて、こういうコラボはいかがかなということを提案させていただきたいと思っております。

以上です。

議長

はい。ありがとうございます。

いただいた御意見を事務局の中でも見ながら、更に前に進めていきたい、それこそ進化というんでしょうか。そういう風にしたいと思っております。

竹生委員からの御提言に始まり、浅田委員から課題なども御指摘いただき、安達委員からも、様々な状況の御質問をいただきながら、加藤委員にも御発言いただいたというようなことでございます。

他にもございまして、食育については各団体の取組も重要ということでございまして、もう一方、御紹介をお願いしております。

農林漁業体験学習に関する取組につきまして、農村輝きネットあいちの杉崎委員、お願いいたします。

【杉崎委員】

はい。私は農村輝きネットの会長の杉崎です。よろしく申し上げます。

農村輝きネットは、もう創立して60周年を迎え、会員の高齢化と会員の減少の中でも頑張っている会です。

私たち、輝きネットは、農政のいろんな方に協力してもらって、各地域で地域活動

に取り組んでいます。

私は西尾市に住んで、農業を営んでおり、夏はモロヘイヤ、冬は菜花を出荷しています。今朝も5時に起きて、モロヘイヤを積んで出荷していました。

私たちのグループでは、地元で穫れた農産物を使い、小学生親子に体験学習をしています。

西三河でよく穫れる、きぬあかりのつるつる、しこしことしたうどんづくり、西尾の抹茶を使ったスイーツ、地元で穫れたこんにやくから作る生こんにやくと、いろいろな体験を子どもたちにやっております。

今小学生の体験学習となると、小学校の低学年の子たちが集まるんですね。高学年になるとクラブ活動があつて。小学校3年生ぐらいの子たちが多くて、じいちゃん、ばあちゃん、父ちゃん、母ちゃん、妹弟など、親子で3人も4人も来る講座をやっています。たくさん集まって、楽しくやって、後から、美味しかったという言葉聞いて、私たちはやってよかったなああと、そういう活動を細々としております。

以上です。

議長

普段の活動の状況を御紹介いただきまして、ありがとうございました。

やっぱり小学校低学年がターゲットというか、それ以上の年齢になると、簡単には参加されないということでしょうか。

【杉崎委員】

そうです。参加してくれなくて、私たちも親子講座を長くやってるんですけど10、20年前から地元の野菜を使ったおせち料理を作ったりしてたんですが、おせち料理とか恵方巻を親子対象で5、6年前にやったら、参加者が全然なくて。おせち料理も恵方巻も、買う時代になっちゃったかなって、会員で残念だなと思ってます。

でも最後の講座のときに、酢和えを子どもたちに作らせて、食べたらおいしいねって言われて、やっぱり、伝統食の味はみんな知ってるんだなと思って、そういう活動をやってますので、お願いします。

議長

杉崎委員、ありがとうございました。

実際に現場に、来ることで、気づくことがあるということかと思います。

関連で何かございますでしょうか。

この他、資料2、資料3に関連して御意見等伺いたいと思いますけども、どなたで

も結構でございますので、いかがでございますでしょうか。

横田委員、お願いいたします。

【横田委員】

コープあいちの副理事長やっています、横田と申します。事前に意見は出さなかったんですけども、JAの関連で加藤さんがお話しされましたので、私たちはJAさんとも協力していただいて、稲作体験とか、いろんなことをやってまして、地産地消というか産地で連携して、利用の普及につなげております。

それで愛知県産がなかなか手に入らないということなんですけれども、私地元が田原市です。良い品は本当に東京の大田市場に回ってしまっていることがちょっと残念だなと思ってるんです。しかしながらコープあいちとしては、環境にやさしい商品を、消費者の皆さんに提供したいという思いで「栽培自慢」という、基準を満たした野菜とかを提供してるんですけども、昨今の物価高で、なかなか若い人が値段の高い商品を利用しないという現状です。結構シニア層なんかはこういうのでないと買わないという組合員さんも多くいます。地産地消ということで、店舗などは地元の野菜を置くようにしていますので、是非皆さんも御利用していただければと思っております。

以上です。

議長

どうもありがとうございました。

地産地消と言いながら愛知の良い品物は大田市場に行くというお話もございましたが、たくさん作っているのもそれは他にも広がりがあるということも思っております。

他に御意見等ございますでしょうか。事前予告なしでも結構でございます。

よろしいでしょうか。それでは、進行させていただきます。

ウ 議題（３）の次期「愛知県食育推進計画」の作成について

議長

続きまして議題（３）、次期「愛知県食育推進計画」の作成について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

資料4、5により説明。

議長

議題（3）につきましては、今御説明したとおりでございます。

各団体様に検討会構成員の推薦を依頼して、スケジュールに沿って進めていくという予定でございます。

国のスケジュールにも沿って進めていくということで、少しタイトなところもございますが、しっかりやっていきたいという風に思っております。

このことにつきまして、御意見等はございますでしょうか。

よろしいですか。

ありがとうございます。御意見なしということでございますので、今年度の次期計画の作成については、この内容で進めてまいりたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

エ 議題（4）のその他について

議長

それでは続きまして、議題（4）その他について、でございますが、上村委員と坪内委員から資料の提供がございますので、この機会に御紹介をお願いしたいと思います。

まずは、愛知県歯科医師会の上村委員、よろしくお願いいたします。

【上村委員】

はい。御紹介に預かりました、愛知県歯科医師会副会長の上村と申します。

このピンク色っぽい紙ですね、ペラを出していただけるとよろしいんですが、愛知県歯科医師会が主催をさせていただきまして、愛知県様にも後援いただく「第15回もっとなで歯ッピーレシピコンテスト」、ハッピーの「は」はですね、「歯」になっております。これの募集が始まりましたので、この場を借りまして御紹介をさせていただきます。

本コンテストにおきましては、児童生徒の思いが伝わるレシピ、愛知県の食材をメインにしたレシピ、食材を工夫してよく噛んで食べられるようなレシピ、それぞれをキッズレシピ部門、高齢者部門、地産地消部門、という風に、3つの部門に分けて募集をさせていただきます。

ちなみに昨年度の募集は、488件でした。その前の年は約500件、大体700から500

件の応募が毎年あります。

詳細な募集要項につきましては、愛知県歯科医師会のホームページを御覧いただくとよろしいかと思ます。

また、これには書いてないんですけど、表彰式としまして、令和8年2月1日の13時から、愛知県歯科医師会館にて開催予定で、入賞者・グループの表彰をするとともに、手塚文栄様の講演を計画しています。手塚様は、管理栄養士と准看護師の資格を持ち、歯科医院で長く勤務されて、障害児を中心に子どもたちの噛む力を伸ばす相談を担当されている方でございます。

愛知県歯科医師会は、本コンテストを通じまして、多くの方々に、よく噛んで食べることの大切さを知っていただき、健康な生活習慣づくりに役立っていただければと願っております。

また、多数の応募をお待ちしております。

委員の皆様には、各団体内での御紹介をいただきますと幸いです。

今日はありがとうございました。

議長

どうもありがとうございました。

是非皆様、御紹介いただければと思ます。

続きまして公募委員の坪内様、よろしく願いいたします。

【坪内委員】

はい。私が事務局をさせていただいております、あいち食育サポート企業団の食育ハンドブックというものを、皆様に配布させていただいております。こちらの、小さいリーフレットになっております。

こちらは、愛知県発祥の企業11社から形成されているサポート企業団で、食育について、日々会議などをして、あとイベントなども行っております。

団長は、株式会社ヤマナカさんになりまして、ヤマナカさんの店舗の方でもこちらのリーフレットは配布しておりますので、また、目に留める機会があるかなとも思ますので、是非その時は手に取っていただければと思ます。

また、最終ページの方に、愛知県様に作成いただいた愛知の野菜と果物というページも今回掲載しておりますので、こちらの方も見ていただければと思ます。

また一緒に同封させていただきました招待状が、ヤマナカさんの方が、一緒に出させていただきます展示会ですので、また御興味あります方は是非御参加いただければと思ます。

ありがとうございました。

議長

どうもありがとうございました。

全体を通しまして、この際何か御意見、御質問等ございましたら、お伺いしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

よろしいですか。

なお、先ほど説明がございましたとおり、この推進会議は、次回は12月、その次は3月に開催をする予定をしておりますので、また調整の方、よろしく願いいたします。

以上で予定しておりました議事はすべて終了いたしました。

委員の皆様方には、議事の進行に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。

県といたしましては、今後も引き続き食育を推進してまいります。

皆様方におかれましても、それぞれのお立場から、食育を推進していただけますようよろしくお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

それでは進行を司会にお戻しします。

(6) 閉会

以上をもちまして、令和7年度第1回愛知県食育推進会議を閉会させていただきます。

委員の皆様方にはお忙しい中、御出席をいただきまして、ありがとうございました。

なお、お帰りの際は交通安全に十分御注意ください。

ありがとうございました。

会議録署名者
